



学校だより

教育目標 自主自律 創造性
豊かな心 健やかな身体
校訓 井草魂～自主、不屈の精神、共感・共働の心～

令和 6 年 1 月 30 日

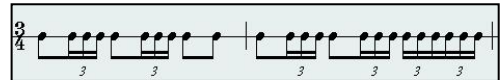
杉並区立井草中学校
校長 田口 克敏

「ボレロ」

校長 田口 克敏

令和 6 年 (2024 年) がスタートして 1 カ月余り。元旦の「能登半島地震」で幕を開けた形となり、今も被災地では困難な状況が続いていることに対して深くお見舞いを申し上げます。

さて、昨年末からなぜかある曲が気に入りだし繰り返し聞くようになりました。その曲とはフランスの作曲家であるモーリス・ラヴェル (Maurice Ravel) の「ボレロ (Boléro)」です。この曲は 15 分間余りの長さですが、同じ旋律が繰り返されていくことで知られています。もう少し詳しく見ると、この曲には大きく A と B の二つの旋律があり、それらを「AABB」の順に演奏するパターンの組み合わせを 4 回繰り返し、その後 A を 1 回演奏した後、B の変形である「B'」を演奏して終わる形になっており、全部で「340 小節」からなっているそうです。



しかもそのうち「338 小節」は右図のリズムを繰り返していく構図となっています。このリズムを最初から最後まで担当するのが「スネアドラム (小太鼓)」です。このスネアドラムが叩かれる回数は、数えた人の計算によると「4064 回」だそうです。同じテンポで 4064 回も叩き続けるだけでなく、この曲は進行に合わせて「クレッシェンド」一辺倒となっているため、かすかな音で始まるスネアドラムの音が最後は他の楽器の音に負けない力強い音で (後半から 2 台のスネアドラムで叩くこともある) 打ち終わるようになっていきます。

メロディー部分は最初ソロのフルートの低音で厳かに始まり、その後メロディーが繰り返されるたびに楽器が入れ代わり立ち代わりしたり重ねられたりしながら次第に音量を上げていき、リズム担当もスネアドラムを中核としながら色々な楽器が奏で、「重厚さ」を増すようになっていきます。

序盤から終盤にかけて様々な楽器が演奏されていくことから、この曲は「オーケストラ」の構成を学習するのに適しているらしく、過去に私が勤務した学校の音楽科教諭は、オーケストラによるこの曲の演奏の映像を生徒に見せて (聴かせて) いました。言葉や写真などだけで各楽器の説明をする授業より、演奏を聴くので楽器の音色が分かりオーケストラがどのように構成されているのかが視覚的にもはるかに具体的で鮮明に理解できるので、とても良い工夫だと思いました。

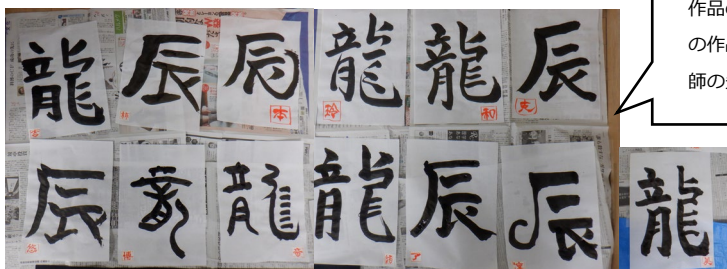
ところで、この曲を繰り返し聴いているうちにふと考えたことがあります。それは、「生きていくことは、『ボレロ』のようなところがある」ということです。もし、テレビドラマなどのような波乱に富んだ日々が毎日毎年のように続いたとしたら、それはもう身も心も疲弊しきってしまわないでしょうか。お話の世界だからドラマチックで良いわけであり、現実には多分に単調なものではないでしょうか。せいぜい「ボレロ」のように 2 つのメロディー (良い時と悪い時、成功と失敗?) があるくらいで、その繰り返しが延々と続く…と言っては身も蓋もありませんが、それが日常ではないかと思えます。

しかし、その延々と続く単調なメロディー、つまり日常の繰り返しは「ボレロ」のように時間の推移 (生まれてから死ぬまで) とともに多彩な体験や経験、人やものとの出会いという「音」が重ねられ重厚なものになっていき、しかもそれは基本的には「クレッシェンド」で進んでいくものではないかと考えました。ということは、成功も失敗も含めて、日常の中でその年代に応じた多様な体験や経験、出逢いを積んでいくことが、その人の人生の厚みを増す、ということになるように思えます。この時大切なことは、失敗を忌避しない、ということです。「ボレロ」もスネアドラムとただひとつの楽器だけで奏でられたら、相当単調な飽きのくる曲になると思います。様々な楽器という「多様性」があることがこの曲を名曲に仕上げていることから、成功・失敗を織り交ぜるからこそ人生、と言えるところです。

「ボレロ」の最後の 2 小節は、それまでの主題とは異なる主題のコーダ (coda) で劇的に収束します。では、自分はどのようなコーダで人生を収束させるのか、そんなことを考えるこのごろです。

i組 書初め大会

1/12(金)に、i組で書初めを行いました。当日は、書道の師範である2名を講師としてお迎えし、今年の干支『辰・龍(たつ)』の文字を書きました。通常サイズの半紙や特大サイズの半紙に個々が選んだお手本を基に立派に書き上げました。この授業を通して、文字文化の豊かさを知ることや筆・墨の扱いに慣れることができたと思います。



作品の一部を紹介します。この中には先生たちの作品も…。生徒の作品はとても力強くて、講師の先生も『素晴らしい』とほめてくれました。



1年道徳【語り継ぐ 阪神・淡路大震災】

命とは何か。特に、毎年この命題を考える日があります。それは、人によって違いますが、私にとっては1月17日がその1つです。

1月17日(木)4校時に、第1学年とi組合同で体育館にて、全体道徳を行いました。主題名を「かけがえのない命」としました。生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することを考えました。ねらいは、「阪神・淡路大震災のときの様子から、命や生きることの大切さに気付くこと」に設定しました。

阪神・淡路大震災の様子を忠実に再現した、『ありがとう』という映画を資料として授業を行いました。

1995年1月17日午前5時46分に兵庫県南部を震源地とした震災から、この日で29年経った日だからこそ、伝える意味があるとの思いで学びを深めました。

VTR視聴後に、災害の教訓から「かけがえのない生命を尊重すること」について、あなたはどのように考えますか、と問いかけました。まず、個人で考え、グループで考えを共有しました。その後に代表者に発表してもらいました。その発表の中で、「よく考えることをしなければ、自分や家族の命のことしか考えることをしない。そのような中で、助けに行くことができる人こそが『生きることの意味』をわかっている人だと思う。」という発言をしてくれました。また、かけがえのない命である自分の命をまず見つめなおしたいという発言もありました。一人一人が折を見て、命の尊さについて考え、あの震災を風化させないこと。私たちにできることはまだまだあるはずです。

中学生の時に兵庫県に住んでいた私は、その気持ちを再認識した日でした。

1年主幹教諭

菅平移動教室(スキー)2年生

～『感謝』を言葉に～

今回の菅平移動教室の目的の一つでもあり、スローガンにも書かれていた大きなテーマが『感謝』という言葉でした。

当たり前のように行事が進んでいく背景には、たくさんの方々の支えや思いがあることを肌で感じた2泊3日だったのではないのでしょうか。我々が快適に過ごせるように宿舎の方々がしてくれたおもてなし、丁寧に指導をくださったスキースクールのインストラクターの方々、安全に送迎をしていただいたバス会社の方々など、たくさんの心遣いを生徒たちは感じたと思います。その都度大きな声で「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝える場面を見ることができ、良かったと感じています。

また、実は同じように日常の学校生活の中にもクラスのために陰で支えてくれている人たちがいます。委員会や係の仕事、何気なく当たり前のように過ごす一日にクラスメイトの気遣いが隠れているかもしれません。そのような場面に気づき、感謝を伝えられる、そんな学年になってほしいと思います。生徒のみなさん、本当にお疲れさまでした。

2年主任教諭



井草中学校創立75周年!

本校は今年度創立75周年を迎えました。これまで、地域や保護者の皆様に支えられ、円滑な教育活動を行うことができましたことに大変感謝しております。今後とも、井草中学校の発展にお力添えをいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



<校舎は何度か建て替わりました>



ささやかですが、今年度在校している生徒の皆さんに記念品としてボールペンを贈呈しました。ぜひ活用してください。

<2月の行事予定>

日	曜	行事	日	曜	行事
1	木		16	金	危機対応訓練 専門委員会
2	金	校外学習(1年) 都立推薦発表	17	土	公開授業 新入生保護者説明会(小6)
3	土		18	日	東京公立学校美術展覧会(終)
4	日		19	月	生徒会朝礼 食育の日
5	月	全校朝礼 安全指導	20	火	
6	火		21	水	校内研究会 3学年①~③
7	水	杉教研一斉研修会 再登校(部活動ごとに異なる)	22	木	
8	木	菅平移動教室前検診(i組)	23	金	天皇誕生日
9	金		24	土	
10	土		25	日	
11	日	建国記念の日	26	月	学年末考査(社・技家・音)
12	月	振替休日 連合移動教室(i組)始	27	火	学年末考査(数・理・保体)
13	火		28	水	学年末考査(国・英・美)
14	水	連合移動教室(i組)終 東京公立学校美術展覧会(始)	29	木	
15	木	振替休業日(i組)			